

West Breeze

Hiroshima City University's founding principle is to become an international university which contributes to world peace and to the prosperity of the community through education and research in science and art.



No.
099
Summer
2026
広島市立大学
広報誌



Clubs & Circles 紹介 いちレボの学生がクラブ・サークルの魅力を伝えます。

FEST-HIROSHIMA

主にフィリピンのセブ島で、学生の視点から国際協力活動を行っている団体です。現地では住民へのニーズ調査を基に支援内容を決定し、1〜2週間ほど滞在して活動します。現在はボイ捨てによるごみ問題や頻繁な大雨による洪水・浸水被害といった課題について、ごみが排水溝を詰まらせ、洪水を引き起こすという構造的な問題にも着目しながら具体的な支援内容を話し合っています。過去には火事が多い地域で「防火プロジェクト」として消火器の使い方を住民にレクチャーしました。長期間海外で生活しながら活動できるのは学生時代ならではの貴重な経験です。

国内での普段の活動では、現地で何をしなければならないのか、

どのような準備が必要かを考え、セブ島での活動に向けた事前準備を進めています。また、活動を支える資金の調達を行うため、最近では大学祭や地域の祭り、広島市内で行われるフリーマーケットに出店しました。活動を知ってもらうための広報活動にも力を入れており、出店した先で来場者に活動内容の説明を行ったり、SNSを活用した情報発信にも取り組んでいます。

学年関係なく意見を出し合いながら支え合い、活動しています！FEST-HIROSHIMAに興味を持った方はぜひInstagram も見てみてください！

(取材・文/国際学部3年 上嶋美優・国際学部2年 岡野純)

【基本情報】
所属学生数/41名
活動日時・場所/月曜日・木曜日
放課後、講義棟430
連絡先
Instagram
@festhirosima



◀左/現地の方にニーズ調査を行う様子。
右/広島市内のフリーマーケットに出店。

この記事は、学生広報クルー
"いちレボ"の学生が担当しました。

2026年度学年暦 後期(10月1日〜3月31日)

10月 1日(木)	16日(金)	19日(月) — 21日(水)	24日(土)	24日(土) — 25日(日)	11月 5日(木)	23日(月) — 27日(金)	23日(月・勤労感謝の日)	12月26日(土) — 1月 3日(日)	1月26日(火)	1月27日(水) — 2月 5日(金)	2月 6日(土) — 3月31日(水)	3月23日(火)
秋季入学式・後期授業開始	月曜日の授業実施	後期履修確認期間	ホームカミングデー	大学祭	火曜日の授業実施	第3ターム試験期間	月曜日の授業実施	冬季休業	金曜日の授業実施	後期定期試験	学年末休業	春季卒業式

West Breezeについての
ご意見やご感想はこちらへ

広島市立大学 広報委員会
E-mail kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp
Tel 082 (830) 1666 Fax 082 (830) 1656



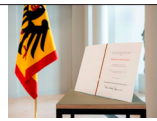
West Breezeの最新号・バックナンバーはウェブサイトからご覧いただけます。

広島市立大学広報誌のタイトル「West Breeze」は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。
【West Breeze 99 号】編集・発行/広島市立大学 広報委員会 発行日/2026年8月1日



ICHIDAI TOPICS

ト部匡司教授が
「フィリップ・フランツ・フォン・
シーボルト賞」を受賞！



©Humboldt-Stiftung/ Benjamin Pritzkeleit

国際学部のト部匡司教授(副学長)が、日独の文化・社会の相互理解に貢献した研究者に贈られるシーボルト賞を受賞しました。教育学を専門とし、両国の学校制度や教育文化の比較研究を長年推進してきた功績が高く評価されたものです。授賞式は2026年6月25日にベルリンで行われ、ドイツ大統領より賞状が授与されました。



「シーボルト賞」受賞



©Humboldt-Stiftung/ Benjamin Pritzkeleit

表紙作品

2025年度
芸術学部デザイン工芸学科(映像メディア造形分野)卒業
岩本 健太郎
「雨越し」
空間映像/デジタル2Dアニメーション
2分5秒
2025年度 卒業制作優秀賞/買上作品



作品動画はこちら



〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
Tel 082 (830) 1500 (代) Fax 082 (830) 1656
https://www.hiroshima-cu.ac.jp/

市大を志望する皆さんへ

市大に入学したい！
という思いを実現させ、
次の目標へ一歩踏み出した
先輩たちから、応援メッセージ。



自分の「好き」を追求

広島市立大学の国際学部には、国際政治やビジネス、語学といった幅広い分野から自分の将来設計や関心に合わせた講義を受講できる5つのプログラムや、英語以外の9言語から選択して学ぶことができる第二外国語科目があり、自分の好きなことを追求できます。また、本学ではネイティブの先生による授業が開講されているだけでなく、留学生の受け入れを積極的に行っており、学内でさまざまな国の方と交流することができます。

私が受験期に心がけていたことは、さまざまな分野に関心を持っていくということです。国際学部の入試問題では現代社会が直面する国際問題が題材とされていることが多くあります。入試では問題に対する自分の考えを述べる設問があるため、新聞やニュースなどで集めたいろいろな情報を照らし合わせ、それに対する自分の意見を持っておくことが大切です。

受験生の皆さんにお伝えしたいことは、何事にも諦めずに挑戦し続けることが大切だということです。途中で挫折しそうなこともあると思いますが、最後まで諦めず頑張ってください。



やりたいことを突き詰める

私には、やりたいことがありました。それは「ゲームエンジンの開発」です。この開発は先駆者も少なく、かなり希少なものです。この大学でならやっていると、広島市立大学を選びました。大学ではどんな研究・開発でも突き詰めることができると思います。そのためにも、まずは自分がやりたいと思う研究や開発などを徹底的に深堀りしてみてください。その自分のやりたいことに対する気持ちを持ってオープンキャンパスなどに参加し「自分のやりたいことは、この大学でならできると肌で感じてほしいです。

私は総合型選抜で入学したため一般選抜のアドバイスはできませんが、総合型選抜で受験をしようとしている人には「自分がやりたいことへの情熱をとにかく表現する」とアドバイスをしたいです。

これから、いくつもの壁に当たってくじけそうになることがあるかもしれませんが、そのときは自分のやりたいことを思い出し、前へと向かっていってほしいです。

皆さんが、やりたいことを突き詰められるように願っています。



夢を楽しく追いかけるために

今、受験生の皆さんは、受験への不安などから心身ともに大変だと思います。そんなときこそ楽しむという気持ちを持つことを大切にしてください。与えられた課題を「課題」として捉えるのではなく、自分の人生を刻む作品の一つとして制作するのもよいと思います。時には、目標と自分の実力に大きな差を感じることがあるかもしれませんが、そんなときは自分を客観視してみてください。私の場合は、周囲の同級生が優れた能力を持っていて、自分がかすんでしまうように思うことがあったとき、そこから這い上がっていくきっかけとして自分を想像してみると心が少し楽になりました。

また、高校1、2年生の方は友達や家族との関わりを大切にしてください。追い詰められたとき、支えてくれるのは皆さんの周りにいる人たちです。しんどくなったときは逃げ道や休憩場所が必要です。美術系の大学への進学は周囲から理解されにくい場合もあります。だからこそ、進みたい進路が見つかったときに相談できるような人間関係を構築しておくことよいと思います。

大変な時期ではありますが、皆さんが目指す場所にたどり着けることを願っています。



入試情報



大学案内



対話の輪の中で(右から2番目が藤田さん)

(ドイツ)ハノーバー専科大学

「わたし」、「ことば」、「あなた」

情報科学部知能工学科 3年

ふじた たいよう
藤田 太陽



語り歩いたハノーバー旧市街



時には翌朝まで議論が続くことも

私は、ドイツのハノーバーに1年間留学しました。ハノーバーは、移民背景を持つ人や留学生も多く、多様な言語や文化が交差する街でした。

授業後にはクラスメートと集まり、政治や文化、哲学、自己内省などについて話す時間が自然に生まれていました。時にはビールを片手に、翌朝まで議論が続くこともありました。英語だけでなく、ドイツ語やそれぞれの母語が混ざり合う中で、互いに言葉を探しながら会話が続いていく空気が印象に残っています。

特に印象に残っているのは、同じ「ことば」でも、背景によって受け取り方が大きく異なっていたことです。政治や文化について話す中では、同じ単語を使っていても、その背後にある前提や感覚が人によって微妙に噛み合っていないことを何度も感じました。そのため、「伝わっているはず」と決めつけず、互いの認識を確認しながら話していました。

帰国後も、留学先で出会った「あなた」との対話は響きながら続いています。あの時の「わたし」は今でもどこかで続いている、留学もまたどこかで揺れ続けているのかもしれません——違和感とともに。

がら会話を続けることが自然になっていきました。そうした対話を通して、その場で「ことば」の意味や文脈を少しずつ共創していくような感覚が生まれていたように思います。

また、会話の中では、相手の言葉をそのまま理解するというより、互いの感覚や前提のズレを引き受けながら対話していたように思います。完全に意味を共有することはできなくても、その非対称なズレを可視化しようとしながら対話を続けていくことには、時にうまく言葉にならない苦しさも伴っていました。



一緒にハワイ語を学んだクラスメート(左端が加藤さん)

(アメリカ)ハワイ大学マノア校

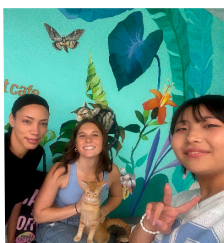
言葉の壁を越えて得られた学びと成長

国際学部国際学科 4年

かとう きょうか
加藤 香華



キャンパスから撮った夕焼けとヤシの木の風景



ルームメートと訪れた猫カフェで

私は、アメリカのハワイ大学マノア校に4カ月間留学しました。高校生の頃から英語圏への長期留学を希望しており、ハワイ大学は学部やコースの種類が多い点に魅力を感じ、留学先に決めました。

現地ではハワイ語や哲学、コミュニケーションの授業などを履修しました。特にハワイ語の授業では、地元出身の学生やアメリカ本土出身の学生、他国の留学生などさまざまな背景を持つ仲間との学びが最も印象に残っています。

当初は言語の壁や日本との授業スタイルの違いに戸惑い、周囲との差を感じて苦戦していました。しかし、クラスメートが温かく勉強をサポートしてくれ、私自身も必死に努力を重ねた結果、授業の理解度や試験の点数を向上させることができ、自身の成長や価値観や経験を自分の軸として生かしていきたいです。

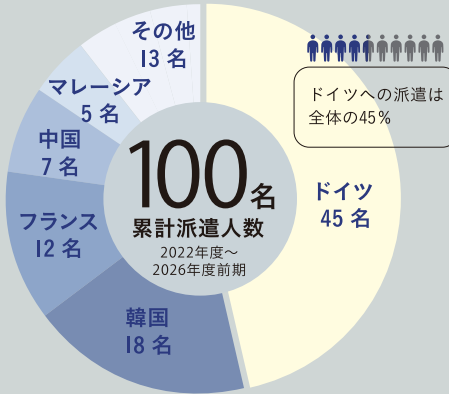
留学前は不安もありましたが、一歩踏み出したことで視野が広がり、大きな成長につながったことから留学してよかったと実感しています。今後も留学で得た価値観や経験を自分の軸として生かしていきたいです。

本学では海外学術交流協定大学との活発な交流・学生交換留学を推進しています。留学を終えた2人から、体験記を寄せてもらいました。

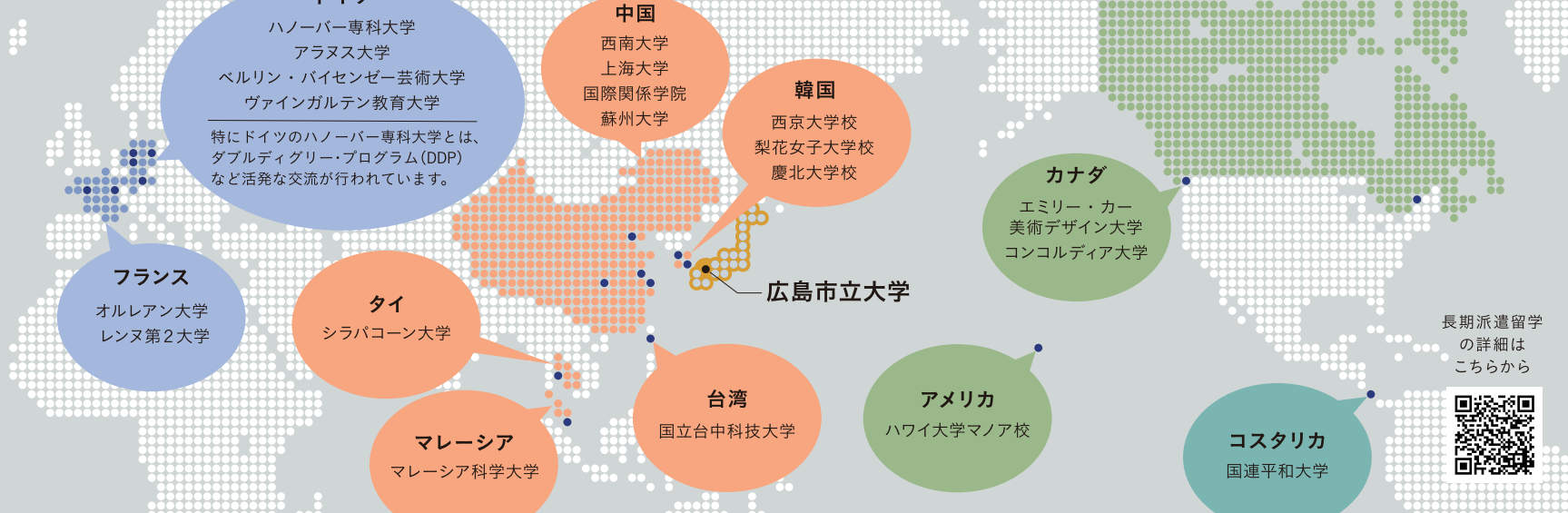
地図で見る派遣留学(長期)

本学の国際交流は、過去5年間の長期派遣留学実績を振り返ると、合計100名の学生が世界9カ国・1地域で学びを深めてきました。

派遣留学とは、広島市立大学と海外学術交流協定を結んでいる協定校に、本学の学生が交換留学生として留学するプログラムです。※学位取得を目的とした留学ではありません。



主要な派遣先国と地域



活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

本学の芸術学部を卒業後、大阪大学大学院を経て、現在は学芸員として勤務されている久米千裕さんにお話を伺いました。

作品を守り伝える仕事をしています



徳島県立近代美術館
主任学芸員
くめ ちひろ
久米 千裕さん
芸術学部デザイン工芸学科
現代表現分野 2019年度卒業

——市大の芸術学部を志望した理由を教えてください。

美術系の大学に進学したいと考えていましたが、高校生の時点では、現代美術、キュレーション、デザインに興味があり、どの分野に進むか決めることができませんでした。そんな中で見つけたのが、広島市立大学芸術学部のデザイン工芸学科です。1年生のうちに7つの分野の授業を選択して受けることができ、2年生からは各分野に分かれます。そのため、1年間かけて自分の進みたい道をじっくり考えることができる点に魅力を感じました。

——学生生活で印象に残っていることは何ですか。

大学祭実行委員会に参加したことです。学部の中にいると、どうしても同じ事に興味を持つ人との関わりが中心になりがちですが、他学部の学生とも交流し、友人関係を広げることができました。

——現在のお仕事について教えてください。

徳島県立近代美術館で学芸員として勤務しています。現在は主任学芸員として、資料の収集・保存・展示、調査研究、教育普及などの業務を行っています。

——学生時代の学びや経験が今の仕事につながっていると感じるのはどのような時ですか。

アーティストとして活動されている卒業生の方が、時折研究室を訪問してくださることがありました。そうした方々が普段段のようなことを考え、どのように作品を制作しているのかを直接伺えたことは、とても良い経験だったと思います。また、大学3年生の4月から1年間、広島市現代美術館のミュージアム・インターンに参加し、実際に現場で働く



担当する展覧会の展示作業

方々の中に入って裏方の仕事を見せていただいた経験が、授業を受けるだけでは得られない貴重な学びとなりました。

——学芸員になるまでの経緯を教えてください。

もともと、作品の制作や発表を支える仕事に関心があり、大学入学後に学芸員という職業を知り、資格取得に必要な授業を履修しました。多くの学芸員が修士課程以上を修了していると知り、私も大学3年生の後期から大学院への進学を考えるようになりました。研究したい内容が実現できそうかどうかに加え、研究室訪問時の雰囲気や入試形式が自分に合っていると感じたことなどから、大阪大学の大学院を受験することを決め、大阪大学大学院文学研究科文化動態論専攻アート・メディア論コースに進学しました。周囲に美術系以外の大学院へ進学する人がいなかったため不安もありましたが、先生やキャリアセンターの方に相談しながら準備を進めました。大学院進学後は約2年間、国立国際美術館のキュレトリアル・インターンシップで学芸業務を学ばせていただき、実際に学芸員を目指す



来館した子どもたちを案内する

展示解説の様子

際には、全国のさまざまな施設の採用試験を受験しました。

——ご自身の今後の展望を教えてください。

働き始めて、今年で5年目になります。「まだまだ新米…」と言いたいところですが、多くの後輩もできました。自分が担当した展覧会を、遠足などで来館してくれた子どもたちに案内した際に「面白かった」と言ってもらえると、とてもうれしいです。日々の業務に真摯に取り組みながら学びを重ね、美術館がより良い場となるよう努めていきたいと考えています。

——最後に後輩たちへメッセージをお願いします。

いざ大学を卒業・修了してしばらく経てみると、美術に関わり続けられる人はそれほど多くないことに気がきます。卒業後に何をしたいのかをよく考え、自分自身が納得できる道へ進めるよう、在学中からさまざまな経験を積み重ねていってください。

この記事は、学生の目線から本学の魅力を発信することを目的に活動している、学生広報クルー「いちれぽ」の広報誌版が作成しました。

YouTube Instagram

芸術Q 課題と自分の制作の両立について

どの学部の先輩も「自分の関心を大切にしながら挑戦すること」の大切さを話してくれました。今回のインタビューを通して、市大生のリアルな大学生活を少しでも感じていただけたら嬉しいです。

「課題と個人の制作活動の両立」については、生活習慣を見直し「大学でしかできないこと」「学外でできること」で分けることでメリハリをつけていくと経験者から話を聞きました。また、「講評や周囲との比較による不安」について、自身も同じ悩みを抱えていたそうですが、その中で他人と比べるよりも自分が納得できる作品をつくるのが大切だと考えるようになり、不安も努力のきっかけとして前向きに捉えていたそうです。そして、将来への不安があったとしても、今自分がやりたいうことに挑戦してほしいとのメッセージをくださいました。

芸術学研究科修士課程2年生 河田 夢里さん

情報Q 授業や大学生活について

情報科学部2年生の立石さん、山本さんについて話を伺いました。新入生から多かった「プログラミングの授業について」「全部を暗記しなくても大丈夫。」「話してくり見ながら進めることも多く大切なのはどう調べるかを身に付けること」などを教えてくださいました。

また、Pythonの大規模イベントで運営に関わった経験が「大学生活の中でも特に印象に残っている」と語る場面もありました。リフトを始めたり、街を歩いたりして新しい土地に慣れたい、一人暮らしならでは話からも、大学生活を楽しんでいる様子が伝わってきました。

情報科学部2年生 山本 麗仁さん

情報科学部2年生 立石 夢里さん

国際Q 部活と学業の両立について

国際学部2年生の吉野さんは、HIF(High International Friendship)の部長として活動する傍ら、現在在長期留学を目標に挑戦を続けています。HIFとは大学内で国際交流の企画や運営を行う組織です。その活動の中でも「シナガポールからの学生に普通体験を提供したことが特に印象に残っている。楽しそうに笑顔で取り組んでくれた」と異文化交流の喜びを語ってくれました。

「部活と学業の両立」については「副部長や会計の友への支えが大きい。周囲のサポートがあつて成り立っている」と話し、仲間と協力する大切さを伝えてくれました。

国際学部2年生 吉野 成美さん

一部活と学業を両立できるの？」

「大学の授業についていけるかな? など、今年入学した1年生から寄せられた不安について、市大の在学生や卒業生の先輩方にお話を伺いました。それぞれの学部ならではのリアルな声を紹介します。」

先輩に聞いてみた市大生活のリアル

編集統括・デザイン: 芸術学部4年 高橋 南帆 ライティング: 国際学部2年 尾立 怜奈・芸術学部2年 境 相奈・芸術学部2年 武川 実由 企画: いちれぽ 広報誌班